

36 南化本『史記』幻雲附標に引かれる

『存真環中図』について

宮川浩也・真柳 城・小曾戸 洋

既報の如く、南化本『史記』（国立歴史民族博物館所蔵）の幻雲附標には、逸書を含め多くの医書が引用され、特に『難経』においては多くの注釈家の説が援引されている。

幻雲附標所引の逸書のひとつ、宋・楊介編『存真環中図』について、幻雲の引用文をもとに整理したので、簡単に報告する。

一、序文の引用

①政和三年（一一一三）の賈偉節の『存真環中図』の序文。

②政和二年（一一一二）の楊介の「存真図」の序文。

③楊介の引用する『欧希範五藏図』の編者呉簡の序文。

①②は多紀元胤の『医籍考』に引かれ、③は『頓医抄』

（巻四四）の梶原性全の読み下し文とほぼ同意である。

二、五藏図の引用

幻雲附標には文字を排列しただけの三種の図がある。

①のど（三つの孔がある）の図。

②「五藏正背図」と題する正面図。

③同じく背面図。

三種の図の文字の排列をもとに比較し見ると、『頓医抄』（巻四四）の図にぴったり合い、①は『欧希範五藏図』、②③は「存真図」に相当する。

三、解説の引用

①「存真図」からの引用。会厭・喉・小腸・大腸・広腸・膀胱に対する蔵府解説を引用する。解説文は「華佗内照図」の解説文とぴったり合う（ただし小腸の解説文だけは見えない）。

②「環中図」からの引用。「環中図」からは経脈の流注の文章が引かれる。また「臍内、注臂節也、臍内天府穴也」「肝、戸当切、脛端也」などの注釈も引かれる。『頓医抄』はこの注釈を引用していない（管見の範囲ではこの注釈を引用した書を見ない）。

③ 「胸会・気舎、又聖恵方環中図銅人経不載之」とあるから、経穴書だったことも窺われる。

四 以上のことから、『存真環中図』は次のような書であると考えられる。

① 序文・解説・図、いずれも『存真環中図』から引用である。したがって、幻雲附標所引の『欧希範五藏図』の図・解説は、『存真環中図』からの孫引きである。

② 蔵府図は『頓医抄』と同じであるが、『万安方』のものとは異なる。

③ 幻雲が「存真、五藏六府図也、環中、十二経図也」というように、『存真環中図』は二部に分かれ、「存真図」には蔵府図およびその解説を載せ、「環中図」には経脈流注と経穴についての記載がある。

④ 「存真図」の蔵府解説は『華佗内照図』の解説と合致する。同系の書の『玄門脉訣内照図』にはこの解説が見えないから、『新刻華佗内照図』のほうが『存真環中図』の旧貌をより伝えている。ちなみに、『頓医抄』『万安方』にも『玄門脉訣内照図』と同じく蔵府解説がない。

(北里研究所東洋医学総合研究所・医史学研究部)